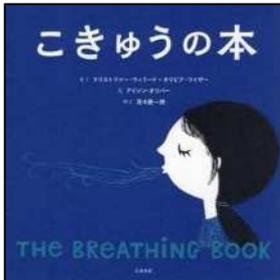


# 読書の旅へでかけよう！



学校司書おすすめの本(小学校・義務教育学校  
4～6年生向き)

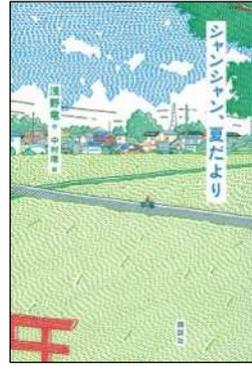
テーマ「本のまどからみえるもの」

 <p><b>『こきゅうの本』</b> クリストファー・ウィラード オリビア・ワイザー / さく アリソン・オリバー / え 茂木健一郎 / やく 大泉書店 498</p> <p>こころが落ち着かない時、イヤな気分の時、この本でこきゅうを整えてみよう！</p>	 <p><b>『ぼくは川のように話す』</b> ジョーダン・スコット / 文 シドニー・スミス / 絵 原田勝 / 訳 偕成社 E</p> <p>うまいえない音があるからうましくしゃべれない。でも、そんな僕を支えてくれたのは、お父さんと見た川だった。</p>
 <p><b>『こどもジェンダー』</b> シオリーヌ(大貫詩織) / 著 松岡宗嗣 / 監修 村田エリー / 絵 ワニブックス 367</p> <p>「オトらしい」「オンナらしい」って、じつは世の中が勝手に作った性別。自分らしく生きるための手がかりになる本。</p>	 <p><b>『牧野富太郎 植物の神様といわれた男』</b> 横山充男 / 著 ウチダヒロコ / 絵 くもん出版 289</p> <p>世の中が大きく変わろうとする明治時代。富太郎は大好きな植物を究めるため、ふるさとの高知から東京へやってきた。</p>
 <p><b>『カブトムシの音がきこえる 土のなかの11か月』</b> 小島渉 / 文 廣野研一 / 絵 福音館書店 486</p> <p>夏に産み付けられた小さなカブトムシの卵。次の夏に羽化するまでどんな成長をとげるのか、土の中での生活をのぞこう。</p>	 <p><b>『自然を再生させた イエローストーンのオオカミたち』</b> キャサリン・パー / 文 ジェニ・デズモンド / 絵 永峯涼 / 訳 幸島司郎 植田彩容子 / 監修 化学同人 489</p> <p>崩れた生態系を復活させるためオオカミを放つ。イエローストーンで成功した再自然化プロジェクト。</p>
 <p><b>『世界の市場』</b> おいしい！たのしい！ 24のまちでお買い物！ マリヤ・バーハレワ / 文 アンナ・デスニツカヤ / 絵 岡根谷実里 / 訳 河出書房新社 E</p> <p>世界中の市場の様子を描いた楽しいイラストから、食べものや暮らしなど、その地域の様子が見えてくる！</p>	 <p><b>『和ろうそくは、つなぐ』</b> 大西暢夫 / 写真・文 アリス館 576</p> <p>一本一本手作りの和ろうそく。蝋を作る時に残ったカスは、藍染めの燃料に、藍染めで使った灰は、焼き物の釉薬になっていた。捨てるものはひとつもない。</p>



『海をわたる動物園』  
いちかわけいこ / 作  
村田夏佳 / 絵  
アリス館 913

戦争で空っぽになった動物園にアフリカから船で動物たちを運ぶ。飼育員となったシュンは様々な困難に立ち向かう。



『シャンシャン、夏だより』  
浅野竜 / 作 中村隆 / 絵  
講談社 913

12歳の夏休みに、野歩人は転校生・ちとせの事情を知る。町にはいなかったはずのクマゼミ探しを通して、野歩人は友達や家族、将来のことを考え始める。



『りぼんちゃん』  
村上雅郁 / 作  
フレーベル館 913

転校生の理緒と仲良くなった6年生の朱理は、理緒の心の痛みに気づく。友達の力になりたいとがんばる姿に周りにも変化がおとずれる。



『科学でナゾとき！  
笑う人体模型事件』  
あさだりん / 著 佐藤おどり / 絵  
偕成社 913

オレは影吾。知的でクールな児童会長。学校の変人講師が父だというのはひみつ。校内で次々と起こる事件のナゾは科学の力で解き明かせるだろうか。



『生き抜け！ 遭難の五日間』  
山口理 / 作 十々夜 / 絵  
文研出版 913

5年生の瞬は、夏の山で友達と一緒に遭難してしまう。知識をいかして厳しい自然に耐えるが、五日目に生きることさえあきらめそうになるのだった。



『ラベンダーとソプラノ』  
額賀濤 / 作 いつか / 絵  
岩崎書店 913

昨年逃した金賞をとるため合唱クラブの練習は厳しさを増すばかり。パートリーダーになった真子は「みんなでがんばる」ことの意味を考え始める。



『ココチン』  
草原の姫、海原をゆく』  
佐和みずえ / 作 トミマサコ / 画  
静山社 913

モンゴル帝国のフビライ・ハンの娘ココチンは明るく賢い姫。西国の王の花嫁になるために、海を渡る冒険ファンタジー。



『縄文の狼』  
今井恭子 / 作 岩本ゼロゴ / 画  
くもん出版 913

縄文時代、狼にさらわれた赤ん坊がいた。村人が救い出したとき、赤ん坊は狼に育てられていた。無事に戻ったその子「キセキ」の成長の物語。



『幸せな日々』  
ミロ・ガヴラン / 著 ao / 絵  
山本郁子 / 訳  
国土社 989

ペーロとユリツァは兄弟みたいに仲の良い大親友。母子家庭と父子家庭の二人はお互いの父・母が羨ましい。そこで二人が思いついたことは...



『火星のライオン』  
ジェニファー・L・ホルム / 作  
もりうちすみこ / 訳  
ほるぷ出版 933

2091年、地球から火星に移住した人間たちは、地球からの支給品を使い、うまく生活していた。しかしある時、大人にだけ感染する謎の病がまんえんし始めた。